

- ・追加・変更箇所は赤文字で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/07/16

改訂 2025/01/07

【Mingulay Boat Song】変更と注意事項

<曲を通じて>

- ・曲想：完全五度の和音（Hm のパートなど）がずーっと鳴っている中で奏でるイメージ。
これが曲のベースになるので、自パートがその担当に戻る時は正確にその音を出す。
- ・演奏方針：譜面上の Hm—はタイでつながられていないので、**音符のパターンで Hm Hm と刻む（アクセントをつけて突く）**。バグパイプが Hm----となっているというよりも、刻んだ方がボートを漕ぐように曲に推進力が生まれる。
ただし、Hm Hm Hm の歌い方は、清流を穏やかに漕ぐ感じ。例えば、川遊びの水切りで、石が水面を滑っていく様のスローモーション映像をイメージ。実は、すごくゆっくりのテンポ。
歌詞の入りが裏になった時も混乱しないよう、指揮は一つ振りにするかも。
- ・曲の進行：下記の通り。要は(A)(B)は 1 回だけ。
(A)→(B)→(C)歌詞 1 番～40 小節
→(C)27 小節 歌詞 2 番～36 小節、41～42 小節
→(C)27 小節 歌詞 1 番～36 小節、43～46 小節
- ・Hm Hm Hm のブレスはパート内で分散させること。一斉にブレスすると音が途切れるので NG。
- ・曲の流れをよく聞いてリズムをとらないと、小節の頭（1 拍目）が分からなくなるので注意。
- ・付点 8 分音符+16 分音符はたおやかに跳ねるリズム感、**8 分音符×2 の単調なリズムは NG。**
跳ねるリズム感を会得するまでは練習中、【敢えてエッジを効かせて跳ね】て体に覚えさせる。
これは、29 小節 B2（同じ音）でも音符ごとに跳ねて歌う（弧で括られているがタイではない）。
- ・**8 分の 6 のリズムをきちんと刻む。** そうしないとざらついた演奏になる。
例えば、リズムが乱れ走ってしまうのは、ワンツ ツー スリー の 3 拍の中の間(ま)を保てず、ワンツ ツッスリー のように突っ込んでしまうから。拍の長さをしっかり感じ、維持することを意識して。
- ・**風の川面を、「ゆ〜ったり」進む風景が見えるテンポと歌い方で。ものすごくゆっくりで鋭さのない曲。**
付点 8 分音符+16 分音符の跳ねも、走らずにゆっくりのテンポの中で刻むこと。
- ・2 番の歌詞
30 小節 ward は、4 分音符+8 分音符 ワー + アド。

→譜面で 1 つの単語が 2 つの音符にまたがっている箇所は、**音符の間に割り振られる母音を強調するイメージで歌う**。(他には、Sail-ing : セーリングではなく、セー+エイリング など)

31-32 小節 heather は、付点 4 分音符×2 ヘー + ザー

34-35 小節 anchor は、4 分音符+8 分音符+付点 4 分音符 アー + アン + カー

36 小節 全パート sets はスタッカートで切る(譜面記載通り)。

最後の子音「s」を意識するとよい。ブレスするのも効果的。ただし、短すぎないように注意。

<個別事項>

(A)

・B1B2 メロディパート。腹に力を入れしっかりと入る。気張る必要はないが、弱弱しいのはダメ。

(B)

・T2 ベースの完全五度の和音 (Hm) を 1 パートで担うことになるのでしっかりと音量を出して。

・20 小節 T1 Let her は、レーヅ(t)ハー (付点 8 分+16 分+8 分音符の跳ねを正確に)

(C)

・全パート Hm Hm がなくなっているが、各パートのメロディに完全五度の和音が埋め込まれている。

→歌詞を歌っていても、完全五度の Hm〜 がベースに流れているように意識して表現する。そのためには、パート内でブレス位置を分散させて、音が途切れないように工夫する。

・T2 メロディは朗々と聴かせるように歌う。

・B1 半音のメロディ (例 29~30 小節の E と #D) は大切に正確に上げ下げする。

特に #D をきちんと半音下げることが意識。

・B2 同じ音が続く際は、油断するとだんだん音程が下がってくるので注意。周りの音を聞きながら下がらないように。

(DrunkenSailor や RioGrande と同様、一音ごとにしり上がりをイメージすると、維持できる)。

・(Coda)45 小節~は rit. ゆっくり。ただし、ここでも付点 8 分音符+16 分音符は跳ねること。